

# CSRレポート2013



## 株式会社 T&Dホールディングス

〒105-0022 東京都港区海岸一丁目2番3号 TEL: 03-3434-9111(代)  
<http://www.td-holdings.co.jp/> mail: [csr@td-holdings.co.jp](mailto:csr@td-holdings.co.jp)

未来が変わる。  
日本が変わる。

チャレンジ  
25

T&Dホールディングスは、地球温暖化防止国民運動チャレンジ25キャンペーンに参加しています。

地球のいのち、つないでいこう



わたしたちは生物多様性に配慮しています

**GPN** Green Purchasing Network  
 グリーン購入に取り組んでいます。



本レポートは、印刷用紙に生物多様性の保全に貢献する「里山物語」、インキは100%植物油 (NON VOC) インキを使用しています。また、印刷工程ではフィルムを使用しない「CTP」、有害廃液を出さない「水なし印刷方式」で印刷しています。

この印刷物1部あたり  
**CO<sub>2</sub> 排出量**  
**68.7g**



この印刷物の印刷物制作において発生する総CO<sub>2</sub>量3,161kgのCO<sub>2</sub>はカーボン・オフセット・ジャパン (www.co-j.jp) を通じてオフセット (相殺) され、地球温暖化防止に貢献します。

# T&D保険グループと ステークホルダーの皆さま

T&D保険グループは社会の一員としてさまざまなステークホルダーの皆さまと共存しています。すべてのステークホルダーの皆さまと誠実かつ積極的に対話し、確かな信頼の絆を結ぶことができるように、CSR活動を推進いたします。



## ▶T&D保険グループ経営理念

Try & Discover(挑戦と発見)による価値の創造を通じて、人と社会に貢献するグループを目指します。

## ▶T&D保険グループ経営ビジョン

**お客さまからの視点**  
私たちは、最優の商品・サービスの提供により、お客さま満足度のトップを目指します

**株主・投資家・市場からの視点**  
私たちは、成長に向けた新たな挑戦により、安定的・持続的に企業価値を向上させ、確固たる存在感のある大手生保グループを目指します

# T&D保険グループとは

## T&Dホールディングス

「T&D」は、「Try & Discover」の頭文字。「挑戦と発見」によって新たな価値を創造し、皆さまのお役に立つ企業グループでありたいとの思いから、そう名づけました。

### 家庭マーケット



ご家族の方が一に備える、死亡・医療・介護保障を中心とした総合生活保障の商品販売を推進しています。営業職員が、お客さまを訪問し、最適な保険商品をご提案します。

主な商品: 死亡保障+医療・介護保障 等

### 中小企業マーケット



多数の企業および税理士・公認会計士を会員とする各種団体と提携し、より多くの中小企業経営者をさまざまなリスクからお守りするための保障制度をお届けします。

主な商品: 定期保険、重大疾病保障保険 等

### 金融機関等代理店マーケット



金融機関・来店型保険ショップ等の窓口を通じて、お客さまのニーズに合った生命保険商品をご提供します。

主な商品: 終身保険・収入保障保険 等

### その他のグループ会社

- 保険事業  
ベット&ファミリー少額短期保険株式会社
- 保険関連事業  
T&Dコンファーム株式会社/東陽保険代行株式会社/株式会社大同マネジメントサービス
- 投資運用・投資助言事業等  
T&Dアセットマネジメント株式会社
- その他の資産運用関連事業  
T&Dリース株式会社/T&D Asset Management Cayman Inc.
- 太陽信用保証株式会社/エー・アイ・キャピタル株式会社
- AIC Private Equity Fund General Partner Ltd.
- 総務関連事業  
T&Dカスタマーサービス株式会社
- 事務代行・計算関連事業等  
T&D情報システム株式会社/日本システム収納株式会社/株式会社全国ビジネスセンター



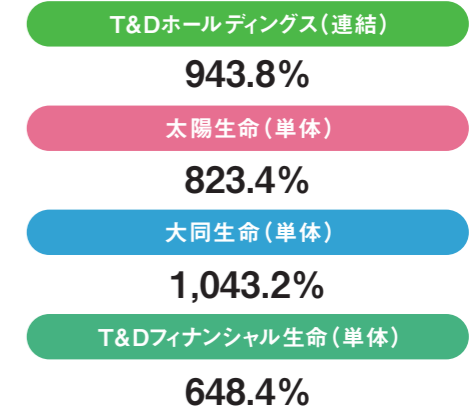
グループ規模 2013年3月末現在



※1 T&Dホールディングス連結(臨時従業員を含む)  
※2 生保3社単純合算(個人保険・個人年金保険)  
※3 生保3社単純合算(個人保険・個人年金保険)

### グループの健全性 (ソルベンシー・マージン比率)

通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「保険金の支払余力」を有しているかどうかを判断するための行政監督上の指標の一つであり、200%以上であれば、健全性についての一つの基準を満たしていることを示します。 2013年3月末現在





株式会社T&Dホールディングス  
代表取締役社長

中込 賢次

## 生保事業が担う社会的責務の自覚に立ち 企業価値の安定的・持続的な拡大を

### ➡ T&D保険グループはどのようなグループですか。

#### 異なる市場で人と社会に貢献する 確固たる存在感のある大手生保グループとして

T&D保険グループは、太陽生命・大同生命・T&Dフィナンシャル生命の3つの生命保険会社を中心とする企業グループです。3つの生命保険会社はそれぞれが異なるマーケットでお客様のニーズに応える商品を販売しており、商品・お客さま・販売方法などが重なり合うことはありません。しかし、各社は、ばらばらに活動するのではなく、グループ共通の確固たる経営理念やビジョン、基本方針の下に、個性と強みをもった会社として集まり、相互に補完し連携しあいながら、幅広く生命保険事業を展開しています。

T&D保険グループは、その企業活動の根幹をなす経営理念として「Try&Discover(挑戦と発見)による価値の創造を通じて、人と社会に貢献する」ことを掲げています。生命保険業は、社会の変化とお客さまのニーズにあった商品・サービスを通じて、揺るぎない安心と万一の時の支えを提供するという、きわめて公共性・社会性の高い事業です。このため、グループ各社が、社会に求められる役割を果たしながら、社会とともに成長し、安定して持続的に成長し続けることが、最も大きな社会的責務であると考えています。

### ➡ グループのCSRの考え方と取り組みは。

#### 事業を通じて社会に貢献することがCSRの基本

CSRというと、社会・文化事業への取り組みや金銭的な寄付、ボランティア活動などを連想されるかもしれませんが。しかし、生命保険業を中心とする当グループは、保険の提供を通じて、より良い社会、人々が安心して暮らせる社会の実現に貢献することができます。生命保険事業は、その性質から本業に地道に取り組むことそのものがCSR、すなわち企業の社会的責任を全うするものだと考えています。「こういう保険が欲しかった」「この保険があって良かった」と思っていただけの保険商品を的確に開発して販売しながら、安定的・持続的に成長できる経営を実現すること——その活動を、誠実に法令やルールを遵守しながら、社会の要請に応えられる従業員の働きやすい職場づくりを進めながら実現すること——これらがまず基本的な課題であると思います。

太陽生命では、従来の生命保険が「主契約+特約」という形をとり、主契約が終了すれば特約も自動的に終了する形式であったのに対して、一つひとつの保険を主契約とすることで、必要とする保障を、必要とする期間に、自由に組み合わせることができるようにした「保険組曲Best」という商品を開発し、大変ご好評をいただいています。従来の保険の「常識」とらわれず、業界に先駆けて開発したものです。

また、大同生命では、平均寿命が延び、企業経営者の現役期

間が長くなる中、従来の死亡保障だけでは対応することができない、重大疾病に罹患した際に手厚い保障を行う保険商品を開発しました。T&Dフィナンシャル生命では、変化するお客さまのニーズに応えるため、お客さまの老後の生活資金への備えや、95歳まで職業告知のみで申し込むことができる終身保険を開発し販売しています。

また、社会の変化と要請に応えるという点で、女性の活躍推進はとても重要なテーマであると考えています。背景にあるのは日本という国の有り様の変化。

ご承知のように日本では人口減少が始まっており、総人口は2060年には約8,700万人まで減少、65歳以上の人口割合は逆に大幅に増えて約40%に達すると見られています。人口減少への歯止め、減少する労働力への対応といった社会的課題への貢献も、今、ここにある企業として重要な責務と考えています。女性活躍推進というのは、女性の管理職をどんどん増やすとか、女性に責任ある仕事を任せるとかといったことだけではありません。女性が、結婚後も普通に働きながら子育てをしていける職場環境、若い人が不安なく結婚し家族を育てていける環境を整備することこそが、とても大切なことだと考えています。それこそ、今、企業が果たすべき極めて大きな社会的責任であり、私たちはそれを率先して進めていこうとしています。

### ➡ グループとグループのCSRの今後に向けて。

#### 社会とともに持続的に成長を遂げ社会への責任を果たすために

当グループにとって、CSRは単なる「お題目」ではありません。たとえば毎年、グループ各社に対して実施している決算モニタリングでは、CSR憲章の項目に沿って、適切な商品開発や満足いただけるサービスが展開できたか、コンプライアンスの徹底は図れたか、などと具体的に振り返り、その達成度を確認し、結果を次年度の経営課題の策定に活かしています。

また、2011年に設置したグループCSR委員会を通じて、グループ各社のCSR活動の内容を確認し、それをグループ全体の展開に広げたり、基本方針や重点分野の検討、新たにに取り組む活動の策定等をグループ一体として行っています。

さらにT&D保険グループの3つの生命保険会社では、収益・リスク・資本を一体的に管理するエンタープライズ・リスク・マネジメント(ERM)を導入しました。ERMは、従来型の損失を回避するための受身的なリスク管理ではなく、企業価値の増大や収益の拡大といった経営目標を達成するための、能動的で戦略的なリスク管理を目指すものです。ERMの導入により、リスクが

資本と比べて過大なものとなっていないか、また、資本政策や収益管理が適切であるかといった総合的な検証や、より合理的な経営判断が可能となります。

生命保険会社の事業は、お客さまとの契約により、保険料を先行してお預かりし、それを長期にわたって確実に維持し、必要な時期に迅速に対価をお支払いするものです。生命保険会社は、このお客さまとの関係において、100年と言わず、200年、300年も健全に存続し続けなければなりません。

2013年は、T&Dホールディングスを設立し、10年目という節目を迎えます。私たちは今、T&D保険グループとして、非常に多くのお客さまの契約をお預かりするに至りました。グループとして大手生保の一角を占め、さまざまなステークホルダーを擁し、大きな社会的責任を負っています。その明確な自覚に立って、これからもグループ一丸となり、グループの経営理念である、Try&Discover、挑戦と発見による価値の創造を通じて人と社会に貢献するグループを目指して歩み続けます。

# 事業活動を通じて 企業の社会的責任を果たす

T&D保険グループは、社会の課題を捉え事業活動を通じて  
その解決を図るため、より良い商品・サービスを提供しています。  
こうした取り組みを通じて企業の社会的責任を果たし、多くの方々から信頼される会社を目指します。



## ▶ より良い商品やサービスの提供

### 太陽生命



太陽生命保険株式会社  
商品部 商品部長

福岡 早苗

保険は、「これでいい」  
から「これがいい」へ

太陽生命では、2008年10月に一つひとつの保険(主契約)を自由自在に組み  
合わせることができる『保険組曲Best』の販売を開始しました。

『保険組曲Best』は、販売から4年半で販売件数が120万件を突破するヒット  
商品となっており、以下の3つの特徴を有しております。

#### 『保険組曲Best』 の主な特徴

- ①最新の保障をお客さまのニーズにあわせて自由に組み合わせる  
ことで、お客さま一人ひとりに最適なプランニングが可能。
- ②『保険組曲Best』加入後もニーズの変化に対応した自由な保  
障見直し・内容変更制度を提供。
- ③販売商品を『保険組曲Best』に集約することで、低廉な保険料を  
実現するとともに新しい保障の迅速な開発・提供が可能。

また、2013年4月には、これまで1泊2日から保  
障していた入院保障を日帰り入院(入院1日)から  
保障するとともに、公的医療保険制度の対象である  
日帰り手術を保障対象にするなど、医療保障の  
充実を図りました。今後もお客さまのニーズにお  
応えすることのできる最新の保障を提供してま  
いります。



### 大同生命



大同生命保険株式会社  
常務執行役員(商品部担当・営業企画部長委嘱)

森中 哉也

より多くの中小企業を  
さまざまなリスクから  
お守りする

大同生命は、1970年代より、中小企業のリスク対策として、経営者の死亡リ  
スクをカバーする定期保険を主力として販売してきました。

近年では、経営者の高齢化、現役期間の長期化に伴い、在任中に重大疾病(がん・急性心筋梗塞・脳卒中)に罹患され、事業継続が困難になるリスクが高まっています。しかしながら、主力の定期保険だけでは、保険金をお支払いできる場合が死亡または高度障害状態に限定されていることから、こうしたリスクに十分対応することができません。

そこで大同生命では、経営者が重大疾病に罹患された場合の事業継続リスクに備える重大疾病保障保険(Jタイプ)を、定期保険とあわせた主力商品と位置づけ、両商品の一体的な推進に取り組んでいます。

加えて、2012年10月には、「経営者入院時の売上減少リスクから会社を守る」というコンセプトで、新たな総合医療保険(Mタイプ)を発売いたしました。

大同生命では、定期保険とJタイプに、Mタイプを加えた「トータルな保障」をお届けすることを通じ、「企業保障のエキスパート」として、「より多くの中小企業をさまざまなリスクからお守りする」という使命を果たしてまいります。



### T&Dフィナンシャル生命



T&Dフィナンシャル生命保険株式会社  
商品部 商品部長

馬場 伸午

お客さまニーズを  
踏まえた  
ひと味違った商品開発

T&Dフィナンシャル生命では、多様化するお客さまのニーズに応えるため、  
給付内容を差別化した商品開発に取り組み、銀行窓販を中心とする代理店ビ  
ジネスにおける商品ラインアップの充実に努めております。

具体的には、資産形成型商品として、お客さまの生涯にわたり毎年追加額を  
確定保険金額に加算し、老後生活資金として準備可能な「生涯プレミアム・シ  
リーズ」3商品を、また95歳までのお客さまが職業告知のみでお申し込み可能  
な「みんなにやさしい終身保険」を提供し、売れ筋商品の変遷が激しい銀行窓  
販市場において、一定のポジションを確保しています。

また、平準払の保障性商品として、保障見直しニーズに対応した「家計にやさ  
しい収入保障」は、保険期間中にお客さまがお亡くなりになられた場合に、遺  
されたご家族に一定期間の遺族年金等を毎月お支払いする保険で、一般的な定  
期保険と比べて低廉な保険料を実現していることや三大疾病罹患時の保障の確保を目的とした  
特則を特長とし、銀行や来店型  
保険ショップを通じて提供して  
おります。

今後ともお客さまにご満足い  
ただける商品・サービスの提供に  
努めてまいります。



▶ より良い商品やサービスの提供

T&Dアセットマネジメント



T&Dアセットマネジメント株式会社  
執行役員 運用部門担当 兼 運用統括部長  
**山中 清**

本来事業である資産運用で、広く社会に貢献

私たちは、生命保険会社の運用を出発点とした資産運用会社です。生命保険会社は資産運用業務を本業としており、長年にわたって蓄積してきた運用ノウハウを継承するとともに、新たな運用手法にもチャレンジしています。当社は、こうした特徴を活かして“Make a Difference(違いを創造する)”を行動指針とし、独自性の高い運用を提供することでお客様の多様な資産運用ニーズにお応えしています。

また、2012年3月には国連責任投資原則(Principles for Responsible Investment)に署名し、投資分析にESG(環境・社会・ガバナンス)の視点を取り入れました。ESGに配慮した事業活動を行う企業を投資対象として評価することにより、運用を通じて社会的責任を果たしていきたいと考えています。

ペット&ファミリー少額短期保険



ペット&ファミリー少額短期保険株式会社  
代表取締役社長  
**仲尾 孝**

飼い主のニーズへ対応する、「げんきナンバーワン」

ペットを家族の一員と認識し、生涯共生することがスタンダードになりつつあるなか、ペット医療への関心が高まっています。しかしながら、ペット医療は自由診療であり、飼い主にとって医療費用に対する不安はますます増大しています。ペット&ファミリー少額短期保険が2008年に発売した、ペットの医療費用補償保険「げんきナンバーワン」は、そのような飼い主のニーズにお応えするため、補償内容がシンプルであり、かつ、高度医療にも対応できる保険商品です。

ペット保険の普及を通じてペットの医療費用に対する飼い主のニーズに応えていくことが、ペット&ファミリー少額短期保険の社会的使命と考えており、引き続きペットと飼い主が共に健康で潤いのある生活を過ごせるよう、お客様のニーズに合った最良の保険商品を提供し、お客様サービスの向上に努めてまいります。

▶ グループ会社の取り組み

T&D情報システム



T&D情報システム株式会社  
取締役 兼 経営企画部シニアマネージャー  
**川端 康雅**

情報セキュリティマネジメントシステムの強化

T&D情報システムでは2007年に情報セキュリティに関する国際規格であるISO27001初回認証を取得し、以後、適用範囲を拡大しながら2013年2月に再認証を取得しました。

今回の再認証では外部認証機関より大規模災害を想定した訓練の実施などで高い評価を受けました。当社で取り扱う情報資産はT&D保険グループの競争力、利益、コンプライアンス、イメージなどを確保するために必要不可欠な資産と位置づけ、適切な安全対策による保護を図るため、ISO27001に適合した当社の「情報セキュリティポリシー」に基づく運用を行っています。

ISO27001認証取得の内部的効果としては、情報セキュリティの運用に関する内部管理機能の強化、外部的効果としては「第三者認証」を取得することによるステークホルダーの安心・信頼獲得を目指しています。

▶ COLUMN

さらなる安心、満足を提供するために



▶ お客様からの信頼に応える

生命保険は「一人は万人のために、万人は一人のために」という相互扶助の仕組みにより成り立ち、お客様は保険に加入することにより、遺族の生活保障、入院・手術・介護の保障そして老後の生活資金などを準備することができます。この仕組みを担う生命保険会社には、多くのお客様から保険料を預かり、不測の事態が生じた場合に保険金等をお支払いしお客様の生活を守るといふ、大切な社会的役割があります。

お客様が生命保険に加入していたことを一番実感されるのは、保険金・給付金・年金等を受け取られる時です。T&D保険グループでは、お客様に確実に保険金等をお支払いすることが生命保険会社にとって最も重要な役割のひとつと考えています。

2012年度当グループの生保3社(太陽生命・大同生命・T&Dフィナンシャル生命)では、保険金・給付金・年金の合計額で9,036億円をお支払いし、お客様の生活を支えるお役に立っています。これからも、確かな保障をお届けするという生命保険会社の社会的役割を重要な責務と認識し、お客様からの信頼に応え、社会の持続的な安定に貢献することを目指していきます。

■ 2012年度 保険金・給付金・年金等のお支払い状況

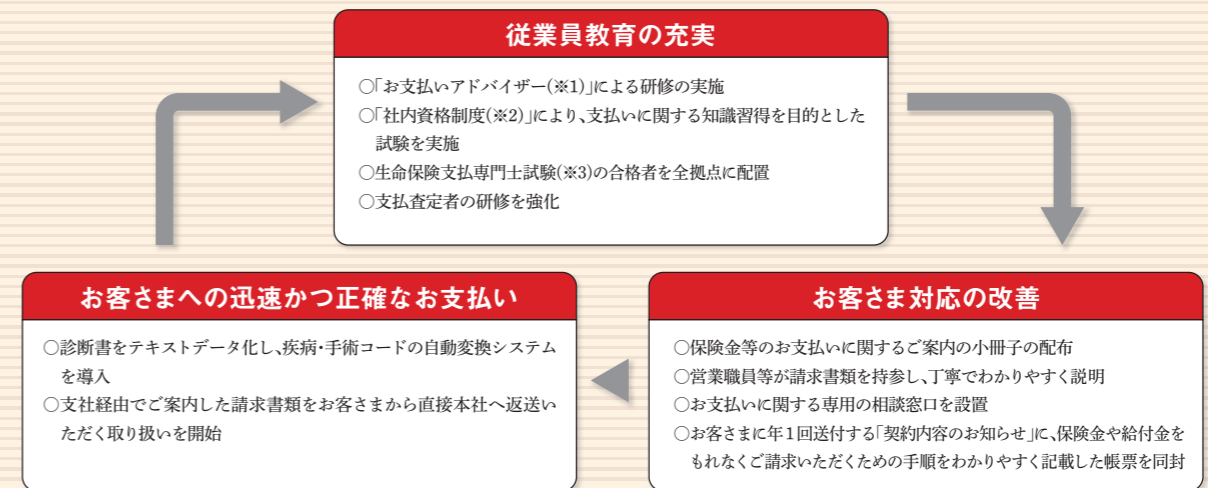
生保3社合計	
保険金	4,492億円
給付金(入院・手術等)	2,165億円
年金	2,379億円
合計	9,036億円

▶ 保険金等の正確かつ迅速な支払いに向けての取り組み

T&D保険グループでは、保険金等の適切なお支払いを実現するため、基本方針の策定、専門委員会の設置、支払部門の人員増強と組織拡充および従業員教育の強化、支払監査態勢の強化、支払査定に関するシステムの改修、商品開発管理態勢の整備など、さまざまな取り組みを行い態勢強化に努めてきました。

また、ご加入時やご加入後のアフターフォローの中でも適宜情報提供を行うとともに、保険金等ご請求手続き書類の簡素化やすべてのお客様に対して丁寧で分かりやすい対応を行うよう接遇の向上を推進し、お客様対応の充実を図っています。

これからも、保険金・給付金等のより正確かつ迅速な支払いが可能となるようさらなる改善に努めます。



(※1)お支払いアドバイザー:保険金等のご請求に関するコンサルタントとして必要なスキルを習得し、自らがお客様のご相談に応じるとともに、それぞれの支社における指導的役割も担います。

(※2)社内資格制度:お客様により丁寧で漏れのないご案内ができるよう、保険金等のご請求受付時の対応や知識習得を目的とした社内資格制度を設け、営業職員・顧客サービス職員・支社内務員を対象に実施しています。

(※3)生命保険支払専門士試験:支払査定担当者の人材育成および査定能力の維持・向上に向け、支払査定担当者に求められる基礎的な知識・判断レベルの修得を図ることを目的に、生命保険協会が実施する試験制度です。

\*記載している施策は、グループ全体またはグループ会社ごとの取り組みです。

[特集1 事業活動レポート]の保険商品に関する記載は、T&D保険グループのCSRについてご説明するもので、保険募集を目的としたものではありません。商品の詳細については、「商品パンフレット」などをご覧ください。

# 高い健全性の確保と持続的な企業価値の増大を目指して

**[ERM]**  
統合的リスク管理で企業価値を高めるため  
ERM\*の導入に取り組みました。

\*ERM(Enterprise Risk Management)



株式会社T&Dホールディングス  
代表取締役副社長  
**白井 壯之介**

## ▶ERMとは

ERMとは「統合的リスク管理」などと訳され、会社が直面するリスクを総合的に捉えた上で、収益・リスク・資本を一体的に管理することにより、健全性を確保しつつ企業価値を安定的・持続的に高めていくとする経営管理手法のことを指します。

## ▶どう役立てるか

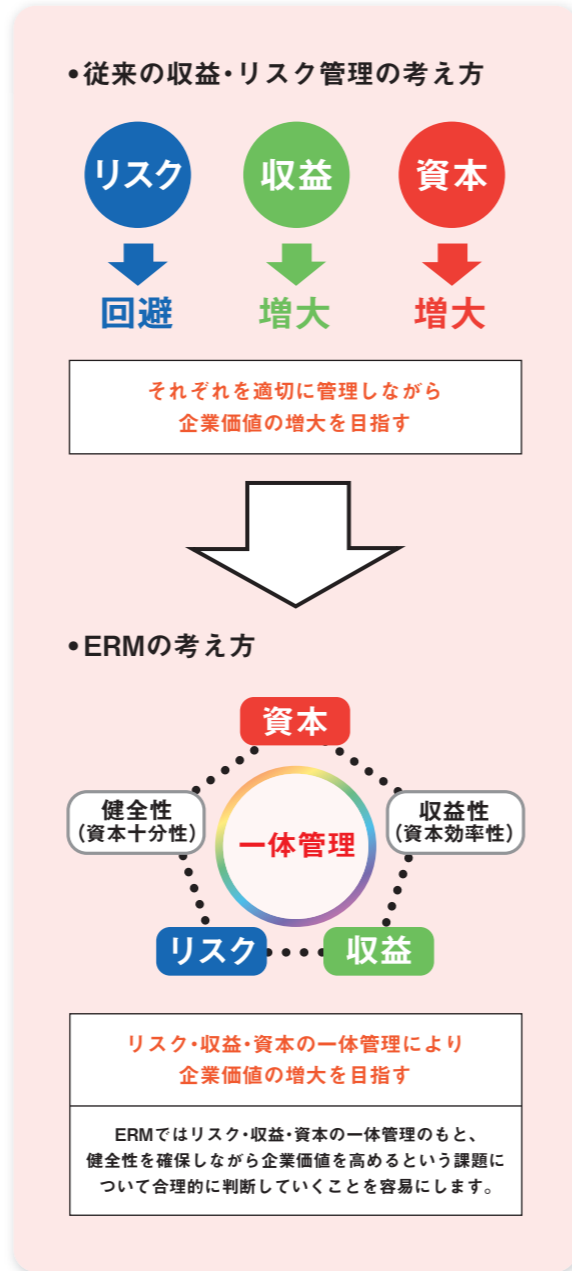
ERMでは、従来のような「リスクの回避と収益や資本の増大をそれぞれ別々に管理」する枠組みではなく、これらを一体的に管理することで、リスクに対してどの程度の資本の余裕を持っているのか(資本十分性)、また資本に対してどれだけ収益を獲得できたか(資本効率性)といったことを見えるようにして、経営判断に役立てるものです。

T&D保険グループでは、会社がお引受けしている保険契約や資産運用に係る損失発生の可能性の他、事務ミスや風評リスクなどから発生する損失の可能性など、経営上の多様なリスクの大きさを計測し、金額ベースで把握しています。

一方、会社が保有するすべての資産と負債を時価(経済価値ベース)で評価して、その差額を、リスクが実際に顕在化したときに損失を吸収できる資本として計測し、金額ベースで把握しています。そしてこの資本の増加額を収益として捉えます。

このようにして同じ経済価値ベースの“金額”で算出された収益・リスク・資本を同時に一体管理し、これらそれぞれの比較により健全性や収益性を評価のうえ、経営判断をしていきます。

非常に長い契約期間に責任を持つ生命保険会社として、これまで同様、まずは高い健全性を確保し、その上で、どのように資本を活用し、安定的に企業価値を高めていくのか、この一見相反するよう見える課題を達成していくためのプロセスがERMであり、ERMに基づいた経営の意義であると考えています。



## ▶お客さまへの安心の提供

### 東日本大震災への取り組み

#### お客さまへのご案内活動

T&D保険グループの生命保険会社3社では、お客さまに保険金、給付金を迅速にお支払いするという保険会社の社会的使命を確実に果たすため、本社から被災された地域へ職員を派遣し、被災地の担当者と協力し、すべてのお客さまにお見舞いやご請求のご案内をする活動を実施しました。

加えて、新聞、テレビ、ラジオなどを通じて、お客さまからご照会をいただく窓口であるコールセンターのご案内を行うとともに、コールセンターの稼働日を拡大しました。原発事故の影響で担当者が訪問できない地域についても、本社コールセンターからの電話や郵送によりご案内を送付するなど、一日も早くすべてのお客さまにご案内をお届けする活動を実施いたしました。また、災害の影響で保険料のお払い込みが困難になったお客さまには、保険料払込みを猶予する期間を延長したり、分割払いのお取り扱いをさせていただき、保険金・給付金および契約者貸付金などのお支払いのお手続き書類を一部省略し、簡易・迅速なお取り扱いをするなどの対応をとらせていただきました。

#### 被災地への支援

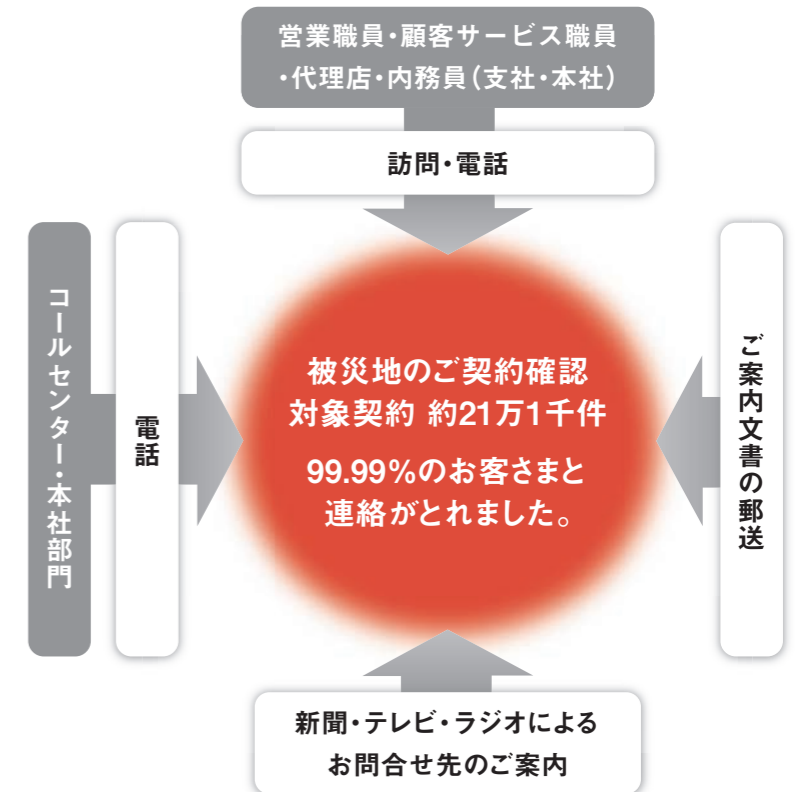
T&D保険グループでは東日本大震災発生直後より、グループの役職員を被災地へ派遣し、瓦礫撤去や支援物資の搬入などの活動を行うほか、個人宅や寺院の復旧作業の協力など、被災地の復旧に少しでもお役に立てるよう支援活動を行いました。震災後2年目となる2012年度においても、被災地市役所への支社社屋の一部提供や、被災地の特産物の購入斡旋、義捐金の寄贈など、幅広い支援活動を行いました。

### 緊急時における業務継続に向けた取り組み

T&D保険グループでは、大規模自然災害、新型インフルエンザなどの発生やコンピュータシステムの停止など、経営に重大な影響を与える緊急事態により、通常の業務運営が困難となるような事態に備え、緊急事態が発生した場合においても、保険金等のお支払いを始めとした重要業務を継続するための危機管理態勢の整備に努めています。

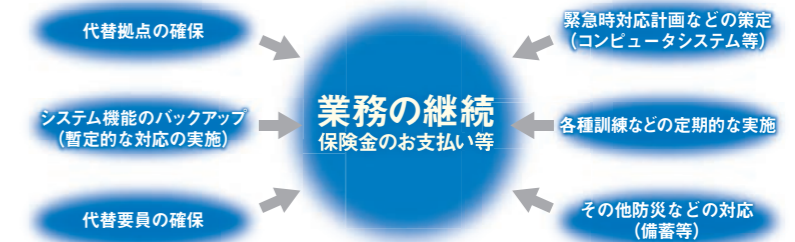
具体的には、大規模自然災害の発生を想定した代替拠点の確保や保険金等のお支払いを暫定的に行うためのシステム機能のバックアップの整備、重要業務を継続するための代替要員の確保、コンピュータシステムに障害などが発生した場合のコンティンジェンシー・プラン(緊急時対応計画)の策定などを行うとともに、緊急時を想定した各種訓練などを定期的に行うことで、緊急時における業務継続の実効性の向上に努めています。

#### ■被災されたお客さまへのご案内活動



#### ■震災による保険金支払状況

T&D保険グループ 生保3社合計	
お支払い件数	2,044件
お支払い金額	77億円



#### 東日本大震災の経験などを踏まえた業務継続対応の見直し

- ・従来の対応計画の見直し(被害想定、継続業務等の範囲の見直し)
- ・代替拠点の確保および整備
- ・衛星電話などの通信手段を含めた連絡体制の整備
- ・各種訓練の実施
- ・その他、防災の観点での対応等の実施(備蓄等)

# 社会貢献と環境保護への取り組み

T&D保険グループでは、社会とともに持続的に成長を遂げ、公共的使命と社会的責任を果たしていくことを目指し、「健康・医療・福祉の向上」「健全な社会の発展」「地球環境の保護」などの観点から、さまざまな社会貢献を実施しています。

## 日本ダウン症協会への支援

太陽生命と太陽生命グッドウィル・サークル友の会は、公益財団法人日本ダウン症協会と交流を図り、賛助会員として同協会が開催するセミナーの会場や評議委員会・理事会の会合に当社ビルの会議室を提供するなど支援を続けています。

また、2012年7月1日に大阪で開催された「よるこびフェスタ2012」には、太陽生命大阪支社から8名がボランティアとして参加するなど、同協会の活動に対して当社役職員による参加型の支援も行っています。



## 全国一斉クリーンキャンペーン

太陽生命は1982年より、地域社会に対する社会貢献活動のひとつとして、年1回、本社周辺の清掃活動を行ってきました。2004年からは「全国一斉クリーンキャンペーン」とし、全国の支社でも周辺地域の清掃活動を実施するようになりました。2012年度は、本社・関連会社および支社から8,638名(従業員の家族を含む)が参加しています。

本社(汐留地区)では、東京都港区の「みなと環境にやさしい事業者会議(mecc)」と共催し、グループ各社の他、mecc会員企業からの参加者とともに、地域美化に取り組みました。



## 全国障害者スポーツ大会への特別協賛

大同生命は、創業90周年の1992年に開催された第1回「全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)」(注)より、毎年、全国障害者スポーツ大会に特別協賛しています。また、大会に参加する選手などとの交流の場である「ふれあい広場」に「大同生命ブース」を毎年設置し、多くの役職員がボランティアとして活動しています。2000年からは、太陽生命もボランティア活動に参加し、グループとして活動の輪を広げています。

(注)「全国知的障害者スポーツ大会」は、2001年に「全国身体障害者スポーツ大会」と統合され、「全国障害者スポーツ大会」として開催されるようになりました。



## 寄付による大学でのオープン講座

大同生命では、ご支援いただいている皆さまに感謝の念を込め、創業100周年を迎えた2002年度より、大学でのオープン講座への寄付を実施しています。

中小企業経営者の皆さまに、経営・ビジネスに関連する知識・スキルの習得の場をご提供させていただいており、過去11年間で延べ約9,100人にのぼる受講者の方々から大変ご好評いただいております。

講座内容は、大学ごとに独自の切り口で工夫を凝らし、中小企業経営に資する理論と実践を織り交ぜたテーマ・講師陣を設定いただいております。また、TKC全国会様からも講師を派遣いただき、税理士・公認会計士の視点による実践的な内容の講義が企画されています。



## 大学向けの資産運用サービス

T&Dアセットマネジメントでは本来の事業領域である資産運用において広く社会に貢献することこそがCSRの本質と考え、大学に対する資産運用サービスを提供しています。これらサービスの提供を通じて、大学が質の高い教育・研究を行えるよう、資産運用におけるガバナンスや財政基盤の確立をお手伝いしています。



## 森林保全活動

太陽生命は、東西2カ所に「太陽生命の森林」を設置し、社員ボランティアによる森林保全活動を展開しています。2006年3月に栃木県那須塩原市に設置した「太陽生命の森林」では、塩那森林管理署ほかの協力を得て、間伐作業を中心とする森林整備活動や森林観察会を実施しました(延べ参加者数約150名)。

2007年11月に滋賀県高島市に設置した「太陽生命くつきの森林」では、現地NPO法人麻生里山センターの協力を得て、鹿の防護柵の設置やアカマツ林での落ち葉掻きなどの森林整備活動や地元小学生がどんぐりから広葉樹の苗木を育て、卒業時に植樹を行う『どんぐりプロジェクト』を実施しました(延べ参加者数約310名)。

太陽生命の森林(栃木県)

設置年月	2006年3月
面積	約4.8ha
CO <sub>2</sub> 吸収量	19t (林野庁評価)



太陽生命くつきの森林(滋賀県)

設置年月	2007年11月
面積	約12.7ha
CO <sub>2</sub> 吸収量	81t (高島市評価)



## ▶ COLUMN

### ワーク・ライフ・バランスやダイバーシティなどに積極的に取り組み、人材の活用を図っています

T&D保険グループでは、「多様な人材が働きがいを感じながら能力発揮できる企業風土づくり」を経営施策の1つとして掲げています。従業員がやりがいを持っていきいきと働くことができる企業グループであるために、さまざまな研修の実施や働きやすい制度の導入などに取り組みとともに、性別や年齢等にかかわらず積極的な人材活用・登用を実施しています。特に近年は優秀な女性従業員の管理職登用やキャリア意識向上のためのセミナーの開催など、女性の能力を活かし、活躍できる職場づくりを推進しています。

#### ■生保3社の女性職員座談会を開催

グループの女性職員をメンバーとするワーキンググループが企画・運営し、生命保険業界初の女性役員となられた湯本壬喜枝氏の進行で、生保3社合同座談会を開催しました。各社の支払業務や営業現場で活躍する女性職員同士がグループ他社の状況に耳を傾けながら、仕事への思いや職場での役割、今後の抱負などについて活発に意見を交換しました。また、内容はグループ報に掲載し、広く役職員に紹介しています。



#### ■女性の活躍をテーマとした役員・部長セミナーを開催

東レ経営研究所 ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長 渥美由喜氏を講師にお招きしてグループの役員・部長を対象とするセミナーを開催しました。渥美氏ご自身の介護・看護の実体験に基づく分析や提言等、説得力のある講義は『経営戦略としての女性活躍推進』の重要性について幹部役職員の理解を深める貴重な機会となりました。



T&D保険グループではCSRについて詳細を記載した「T&D保険グループCSRレポートデータ編」を発行しています。その他の活動についてはCSRレポートデータ編をご覧ください。[URL] <http://www.td-holdings.co.jp/csr/report/>

# CSR活動の推進と活動状況

グループ一体となったCSR活動を推進するため、2011年に「グループCSR委員会」を設置しました。

グループCSR委員会では、グループのCSR活動の基本方針や年間の活動計画を策定し、その実施状況や実施結果を確認・検討し、次年度の活動計画を策定しています。また、グループ共通で取り組むCSR活動だけでなく、グループ各社がそれぞれに取り組むCSR活動のグループ全体での情報共有も推進しています。

グループCSR委員会ではSRI調査機関の評価(ステークホルダーの視点)と従業員アンケートの結果(T&Dグループの視点)などを基に毎年重点分野を定めています。2012年度は、「人権の尊重」「地球環境の保護」を重点分野とし活動しました。



## ■2012年度 グループCSR活動の状況報告(抜粋)

ここに記載しているのは、グループ共通施策として実施した主な活動です。この他にも、グループ各社が独自に実施しているCSR活動があります。活動の詳細については、CSRレポートデータ編に記載されています。【★は2012年度の重点分野です。】

グループCSR憲章項目	取り組み内容	結果・実績	2013年の活動予定
★人権の尊重	グループ人事戦略としての女性活躍推進	グループの女性職員によるワーキング活動を継続し、生保3社共同の女性職員意見交換会(計2回)を企画・運営。内容はグループ報に掲載し、グループ役員に広く周知。キャリアチャレンジへの意識喚起に努めた。また、女性活躍推進に係る経営幹部層の認識共有を目的としてグループ役員・部長セミナーを実施。	人事部門間の連携を強化し、女性職員の意識を確認しつつ役員職員の意識醸成・啓蒙施策を協働で実施することにより、グループ取り組みの充実・向上を図る。
	ワーク・ライフ・バランス促進のための啓蒙活動	e-ラーニングの継続実施(2008年度より累計9回)により、グループが目指すワーク・ライフ・バランスへの正しい理解を促進。	女性活躍推進と一体的なワーク・ライフ・バランス推進を次世代法行動計画目標(計画期間:2013.4.1~2015.3.31)に設定し、啓蒙活動を継続。
	障がい者雇用への積極取り組み	障がい者の雇用状況についてグループ内で情報を共有。2013年3月時点の生保3社の障がい者雇用数は合計で316名(うち、2012年度の新規雇用者は41名)であり、障がい者雇用率は2.04%となった。	障がいのある従業員が働きやすい職場づくりをさらに進め、障がい者雇用の促進に努める。
★地球環境の保護	グリーン調達基準(印刷、不動産、システム等を含む)を制定	「グリーン購入基準等細則」を制定し、グループ各社の商品パンフレット・約款等の印刷、不動産設備、システム機器等の調達においても、環境負荷の低減に資する商品やサービスの優先購入を推進した。	グループ各社のグリーン調達の推進状況を把握し、グループ各社に情報連携する。
	電力使用量削減 目標期間:2008年度~2012年度 基準年度:2006年下期+2007年上期 対象範囲:汐留本社ビル 目標値:5年平均で基準年度比2%以上削減	東日本大震災による電力不足への対応を継続して実施した。また、昼休みの消灯、離席時のPCスタンバイ設定、時間外空調管理の徹底、コピー機・プリンターの電源OFF等の施策の徹底を図った。 【目標比82.3%(目標達成)】	対象範囲を中核会社の本社・支社全社に広げた2013年度以降5年間の新たな長期目標を次のとおり策定。目標達成に向け全社的な取り組みを推進する。 目標期間:2013年度~2017年度 基準年度:2009年度 対象範囲:中核会社が保有または賃借して使用するビル全体 目標値:原単位を床面積とし、基準年に対し、5年平均で10%以上下回る。
	事務用紙使用量削減 目標期間:2009年度~2013年度 基準:2008年度までの5年平均 対象範囲:汐留本社ビル 目標値:5年平均で5%削減	コピー枚数の管理強化、会議資料の削減、2in1印刷、両面印刷を実施。 【目標比76.1%(目標達成)】	コピー枚数の管理強化、会議資料の削減、2in1印刷、両面印刷を実施するなどの施策を継続実施する。
	グリーン購入比率 目標:80%以上 対象範囲:HD・中核会社	2010年度より、環境対応商品以外を購入する場合、申請が必要となることを引き続き実施。 【グリーン購入比率95.7%(目標達成)】	2012年度施策の継続実施に加え、iPad等の利用による会議のペーパーレス化や約款のCD-ROM化について、先行して実施している会社の情報を共有化する。
コミュニケーション	CSRレポートの発行	従業員・顧客・一般消費者を対象としたフォーカス編(9月)と、投資家等を主な対象としたデータ編(10月)を、それぞれ発行した。また、ともに英語版を12月に発行した。	第三者意見や従業員アンケート結果、および外部機関の評価等を反映し、フォーカス編・データ編を9月(英語版は11月)に発行する。
地域社会への貢献	グループ共同献血運動の実施	グループ各社と連携し、汐留本社ビルで8月と1月に献血運動を実施。献血参加者数は合計371名。	2012年度と同様に、輸血用血液が不足しがちな8月と1月にグループ共同献血運動を実施する。

## 第三者意見

# CSRの一層の推進に向けて

T&D保険グループのCSR報告書はフォーカス編とデータ編の2つに分かれており、このフォーカス編では、グループとして最も重要な点に焦点を絞って報告することを意図しているものと拝察します。その意味で、報告書の冒頭、経営トップが明確なメッセージを発していることは、貴グループのCSRに対する基本姿勢を示すものとして高く評価できると考えます。また、そのメッセージに込められた「生命保険事業は本業に地道に取り組むことこそCSRである」との主張にも共感します。

保険という商品は、最初は保険料を払う一方で、実際に保険金を受け取るまでその効果を実感しにくいという性質がありますから、その商品がいいのか、悪いのか、一般の人には判断しにくい面があります。そのため多くの方は、保険会社を信頼して保険を選ぶのだと思います。だからこそ保険会社は、できるだけ加入者に有利な商品設計をし、商品内容を事前に詳しく説明するといった誠実な経営をすることが大切になるのです。信頼に応えることが責任であり、信頼が高まることで結果的に企業価値も高まるのでしょう。冒頭のメッセージの意味もそのようなことだと理解しています。

実際に保険金を受け取るのは遠い将来ですから、その間会社が存続するというのも、最低限の責任です。この点、高いソルベンシー・マージンを維持するとともに、統合的リスク管理(ERM)に取り組んでいることは評価できると思います。

もっとも、「本業に専念することこそCSRだ」といっても、単に現状を追認すればよいというわけではないでしょう。これは、事業をどう定義するかということと関わります。保険会社の事業は、単に保険料を頂いて保険金

を払うという商品を売ることでしょか。それとも保険という商品を手段として保障と安心を提供することでしょか。もし、事業を後者のように捉えるなら、保険金を払うだけで十分に安心を提供したと言えるでしょうか。少子高齢化や格差社会といった潮流の下で、御社が今後どのような役割を果たしていくべきなのか、長期的なビジョンをより明確にされることを期待します。

保険会社は一方で巨大な機関投資家としての側面を持っています。資金運用のあり方が将来の社会や地球環境に大きな影響を及ぼすということです。この点、太陽生命は国連の責任投資原則にいち早く署名し、昨年T&Dアセットマネジメントも署名したことは高く評価できます。今後これをグループ全体に広げるとともに、投資・運用業界全体の中でもリーダーシップを発揮して頂きたいと願っています。



高崎経済大学 経済学部 教授

## 水口 剛

1984年筑波大学第三学群社会学類卒業。ニチメン、英和監査法人等を経て、1997年高崎経済大学経済学部講師、2008年より現職。主な研究分野は環境会計、社会的責任投資等。日本公認会計士協会サステナビリティ情報開示専門部会長、中央環境審議会環境と金融専門委員会委員などを歴任。現在、NPO法人社会的責任投資フォーラム共同代表理事を務める。主な著書に「責任ある投資」(岩波書店)、「社会を変える会計と投資」(岩波書店)、「環境と金融・投資の潮流」(編著、中央経済社)、「環境経営・会計」(共著、有斐閣)など。

## ▶ 第三者意見を受けて/株式会社T&Dホールディングス 経営企画部CSRグループ

今年度のCSRレポートフォーカス編では、グループ各社が事業活動を通じて社会的責任を果たしていること、そして、お客さまの信頼に持続的に応えていくため、高い健全性の確保等に向けて取り組んでいることにフォーカスし、報告しております。また、ダイジェストとして社会貢献や環境保護および人材の活用への取り組み、昨年度のCSR活動の推進状況についても報告しております。

今回、水口先生から、現代社会の潮流の下で当社が果たすべき役割の長期的なビジョンを明確にすることを期待する、また、投資・運用業界全体の中でリーダーシップを発揮してもらいたい、との期待の言葉をいただきました。

今後の活動を通じてこれらの期待に応えられるよう、また、広く社会の期待にも応え、様々なステークホルダーの皆さまから信頼していただけるよう、グループ一体となってCSR活動を推進していきます。